

嫌気性菌入りアミノ液肥

カメガード液

10 L、20 L入り

本材は、穀類や大豆等を嫌気性菌で醗酵熟成させた強烈な臭気のある黒褐色の液体です。本材の使用目的は登熟促進と品質向上・増収にあります。本来の使用目的以外のカメムシ、ネズミ、モグラ、セミ、鳥、ナメクジ、オンシツコナジラミ、スリップス対策に使用した農家さんから、「ネズミやモグラの被害が減った」、「ペットボトルの容器に入れ枝に吊ると蟬の被害が軽減された」、「コーヒー等の空缶に入れ畝間に置くとオンシツコナジラミやスリップスの活動が低下した」、「日中、土の中に隠れているナメクジが逃げ出してきて捕殺し易くなった」等と云う報告が数多く寄せられています。なぜそうなるのか、その作用機作はよく分かりませんが、どうもその臭いにあるようです。以下に農家さんから報告のあった使用目的、使い方、使用結果(*印参照)を記しておきますので参考にして下さい。

作物	使用目的	使用方法(*印は研究熱心な農家さんの報告)
水稻	下記①～③の処理方法の中から都合のよいものを1つ選んで処理して下さい。	
	登熟向上 (*カメムシ対策に 応用)	① 1回目(開花5～7日後の乳熟期) 原液3～5 L/10aを水200Lに溶き鉄砲ノズルで散布する。 2回目(前回の処理から5～7日後) 処理量及び処理方法は前回に同じ。 *登熟向上を目的に上述の通り2回処理しているとカメムシの被害が見られなくなったと云う報告あり。
		② 1回目(開花5～7日後の乳熟期) 田に水があれば畦畔から10～30cm中に入った所に1ヶ所当たり原液40～70mlを3m間隔で田の周りに額縁処理する。 2回目(前回の処理から5～7日後) 処理量及び処理方法は前回に同じ。 *登熟向上を目的に上述の通り2回処理しているとカメムシの被害が見られなくなったと云う報告あり。
		③ 1回目(開花5～7日後の乳熟期) 原液3～5 L/10aをバケツの水に溶き、水口から流しこむ。 2回目(前回の処理から5～7日後) 処理量及び処理方法は前回に同じ。 *登熟向上を目的に上述の通り2回処理しているとカメムシの被害が見られなくなったと云う報告あり。
イチゴ、メロン、 トマト、ナス等の 果菜類	増収・品質向上 (*害虫対策に 応用)	原液3 L/10aをケルパック66及び液肥と混用し、3～4週あけて2～5回灌水チューブで流す。(イチゴでは艶が出る) *コーヒー等の空缶に入れ、畝間に20缶/10a位置しておくでオンシツコナジラミやスリップスの被害が軽減されたと云う報告あり。
アスパラなど 野菜一般	増収・品質向上 (*ナメクジ対策に 応用)	300倍液を2～4週間おきに表土に灌水するか、又は土壌灌注する。 *上述の処理を行なっていると日中隠れているナメクジが這い出してくるため捕殺し易くなったと云う報告あり。
野菜一般		*畝、ハウス、納屋、貯蔵庫の周りに原液を散布又は灌注するとネズミ、モグラの被害が軽減されたと云う報告あり。
果樹一般	(*ねずみ、もぐら 対策に応用)	*降雪前、または根雪初期に地際部から積雪に応じ地上50～150cmの幹・枝に原液又2～3倍希釈液(その場合、必ず固着剤を加用すること)を塗布または噴霧することによって、また雪解け後も再度地際部に塗布または噴霧することによってネズミの被害が軽減された報告多数あり。
柑橘	(*カメムシ、セミ 対策に応用)	*カメムシ、セミの飛来期に空ペットボトルに窓を開け、原液200ml位入れて枝に15～40本/10a吊るす(園地の外側は多めに吊るし、空になったら再度注入することによって、カメムシ、セミの被害が軽減されたと云う報告あり。

肥料農薬との混合可否 : 全ての肥料・農薬と混合可。

2024.8

販売元 〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19

ロイヤル インダストリーズ株式会社 Tel 03-3489-1408 Fax 03-3489-9308